

21 世紀の家族農業の役割に関するアジア太平洋地域 コンサルテーション会合の概要

1. 会合の概要

国際家族農業年（2014）の国際的取組の一環として、FAO がスワミナサン財団（印）*と共催し、アジア太平洋地域において、途上国において、家族農業が飢餓・貧困、食料安全保障や持続可能な開発に果たす役割に注目し、家族農業への注目度を向上させる目的で開催。

* 1940～60 年代のインドの「緑の革命」に多大な貢献を果たしたスワミナサン博士によって設立された非営利国際農業研究機関

2. 開催日時・場所

日時：2014 年 8 月 7 日（木）～ 10 日（日）

場所：スワミナサン財団本部（インド・チェンナイ）

3. 参加者

7 日のハイレベル会合には、ブータン、インドネシア、ミャンマー、ネパールの農業大臣や国際機関（FAO アジア太平洋事務所、IFAD、WFP 等）の代表が参加。

7～10 日には、各国政府代表（我が国ほか、アフガニスタン、豪州、カンボジア、モンゴル、スリランカ、タイ、ベトナムの農業省事務レベル等）、農業技術研究者、CSO、農業団体代表など。

4. 議事次第

日付	時間	内容
7 日	15:00-17:00	ハイレベル会合
	17:30-19:00	各国代表による国内情勢の発表
8 日	9:00-10:30	本会合 1：地域の家族農業と持続可能性
	11:00-13:00	本会合 2：ジェンダーと女性のエンパワーメント
	14:00-17:30	テーマ別議論：山岳地、漁村、かんがい地域の課題
9 日	9:30-11:00	本会合 3：家族農業の利益増大
	11:30-13:00	本会合 4：農業システムにおける栄養の主流化
		本会合 5：家族農業における技術や技能、情報のニーズ
	16:30-18:00	テーマ別議論の全体討議
10 日	9:30-13:00	閉会セッション：各セッション報告、「宣言」採択

5 会議概要

(1) 本会合では、各国や国際機関の代表による発表や、家族農業の振興に関する様々な課題で発表や議論が行われた。その概要は以下の通り。

- ・ アジア太平洋諸国では家族農業が農業の太宗を占めるため、特に途上国において、家族農業の振興が飢餓・貧困の撲滅に効果的。更に、こうした国では、家族農業の環境や生態系を保全する機能の維持・促進が重要。
- ・ 途上国の家族農業では、女性が中心的な役割を果たし、女性の地位が低い事例も多いため、女性の強化（empowerment）が必要。
- ・ 家族農業における栄養改善が急務の課題（飢餓に加え、微量栄養素不足による「隠れ飢餓」の深刻さ）。その手段には、作物の多様化、栄養強化作物の導入、自家菜園・自家養殖など様々な方法がある。
- ・ 家族農業の収益向上のためには、土地・水などの資源、必要な資金、保険や市場へのアクセス確保、生産ロスの削減、技術支援、バリューチェーン構築が重要。更に、緊急救済策として社会的保護制度も構築すべき。農産物価格の高値安定は、小規模農家の収益改善となる可能性もあり。
- ・ 技術の普及は家族農業の振興に不可欠。小農が使いやすく、収益向上に資する技術開発が重要。普及に関して、IT 技術を用いた普及システム、農家が容易に訪問できる農村地域への普及所の配置等が効果的。

(2) 我が国からは、国別発表や個別議論で以下を発言

- ・ 途上国の家族農業の振興は、飢餓・貧困撲滅のために有効。
- ・ 途上国の家族農業の活性化には、フードバリューチェーンを構築し、家族農業がバリューチェーンへの参画を可能にする能力構築が肝要。
- ・ 日本においても家族農業が農家の太宗をしめており、家族農家の平均経営規模は拡大しつつある。しかし、主要輸出国と比べるとはるかに小さい。
- ・ 和食が世界文化遺産に登録されたが、これは我が国の多様な農業・農村によりはぐくまれたもの。
- ・ 農業は食料の安定供給に加えて、水源の涵養、環境や国土の保全、地域社会、景観や伝統・文化の維持といった多面的機能を果たす。
- ・ 世界各国で、長い歴史の中、家族農業が築いてきた遺産的価値を有する農業システムが、世界農業遺産であり、我が国はFAOの活動を支援。
- ・ 農業に従事する女性の強化も重要。我が国では様々な農業女子支援措置がある。その一つの例として「農業女子プロジェクト」を紹介。